

利根川水系中川における 鳥類集団営巣地の今後について

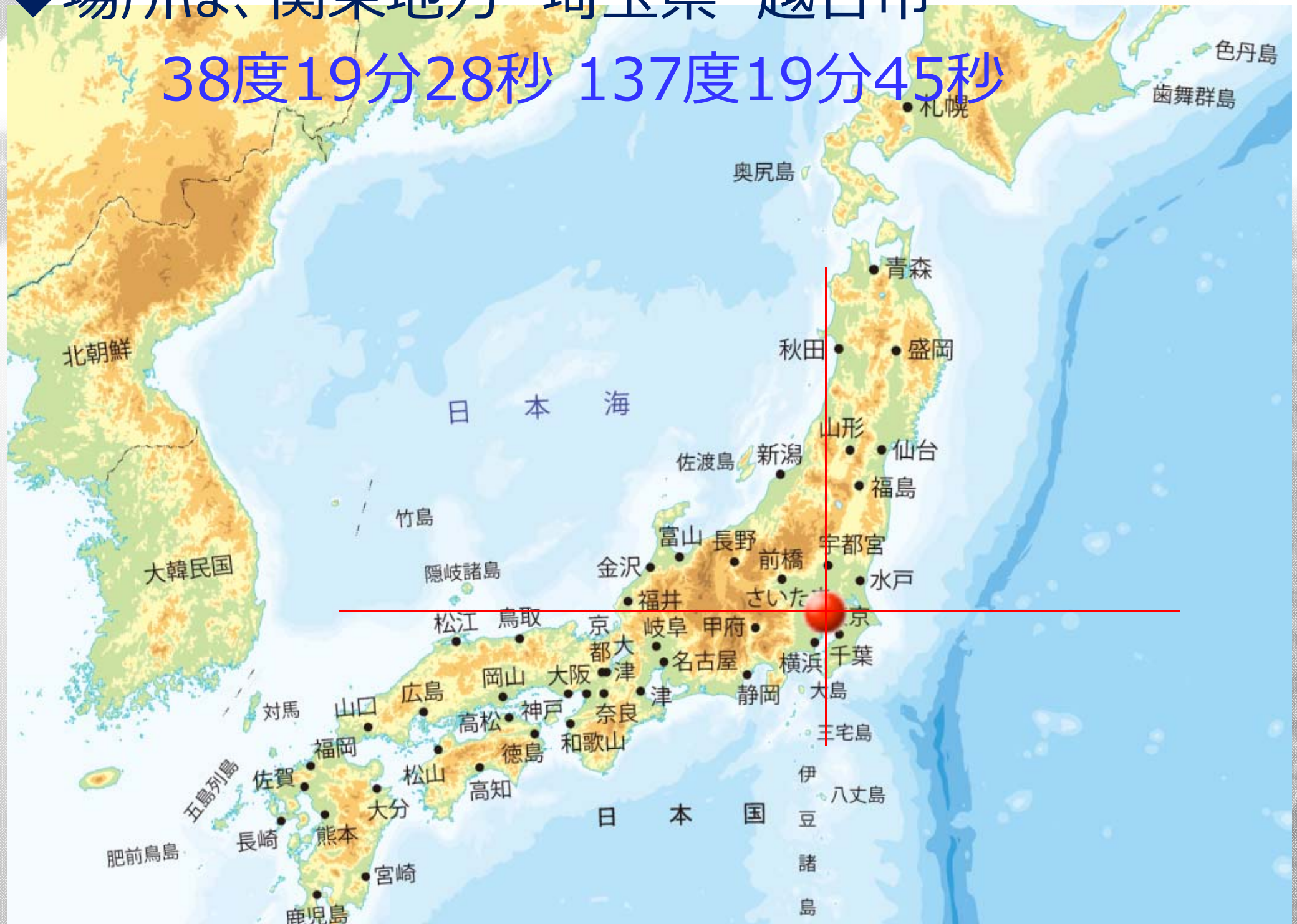
江戸川河川事務所
調査課 松本

説明の内容

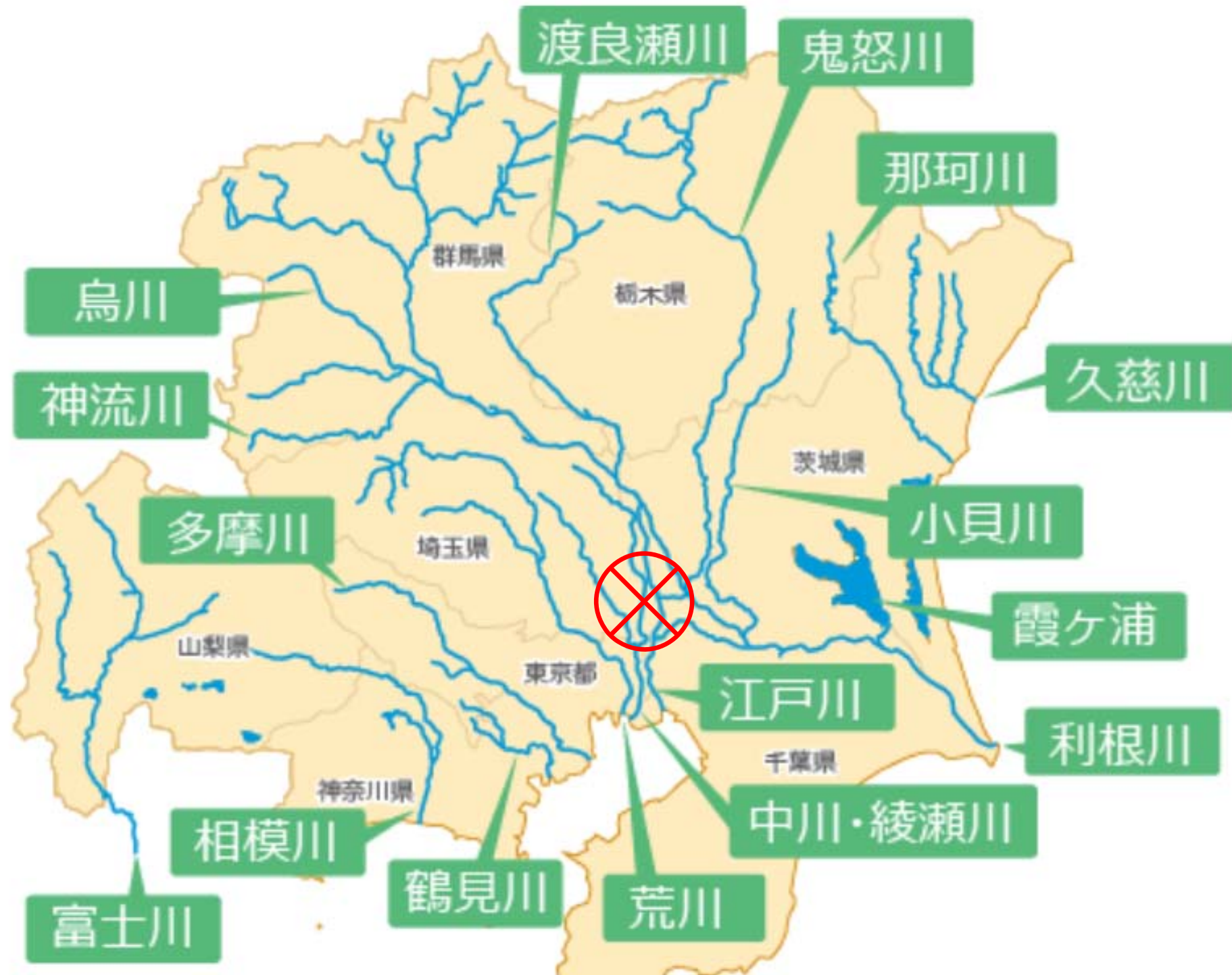
- ◆利根川水系中川には、鳥類集団営巣地がある
営巣地を通称「コロニー」と呼び、営巣している鳥は「サギ類」
- ◆埼玉県内の大規模集団営巣地の現状
過去からの情報と現状について
- ◆江戸川河川事務所における取組について
今までの調査結果と今後の方針について

◆場所は、関東地方 埼玉県 越谷市

38度19分28秒 137度19分45秒



◆場所は、利根川水系 中川右岸31.5km付近



◆場所は、埼玉県越谷市中島3丁目付近
中川 右岸 31.5km付近 中島地先

さいたま新都心から東へ約19km



◆ 集団営巣地とは

集団営巣地（しゅうだんえいそうち） colony

多くの海鳥類、[サギ](#)類、一部のシギ類や小鳥類、その他かなり多くの鳥が一つの場所や木に集って営巣する。こうした集団繁殖場所を一般にコロニーと呼ぶ。集団営巣地の大きさは、数番（つがい）のものから10万以上の大集団になるものまでである。鳥類が集団で繁殖する理由は主として外敵に対する共同防衛の利点があるためである。

ブリタニカ国際大百科事典 小項目事典の解説



コロニー拡大【右岸より】

◆中川で今まで営巣を確認した鳥類は6種類

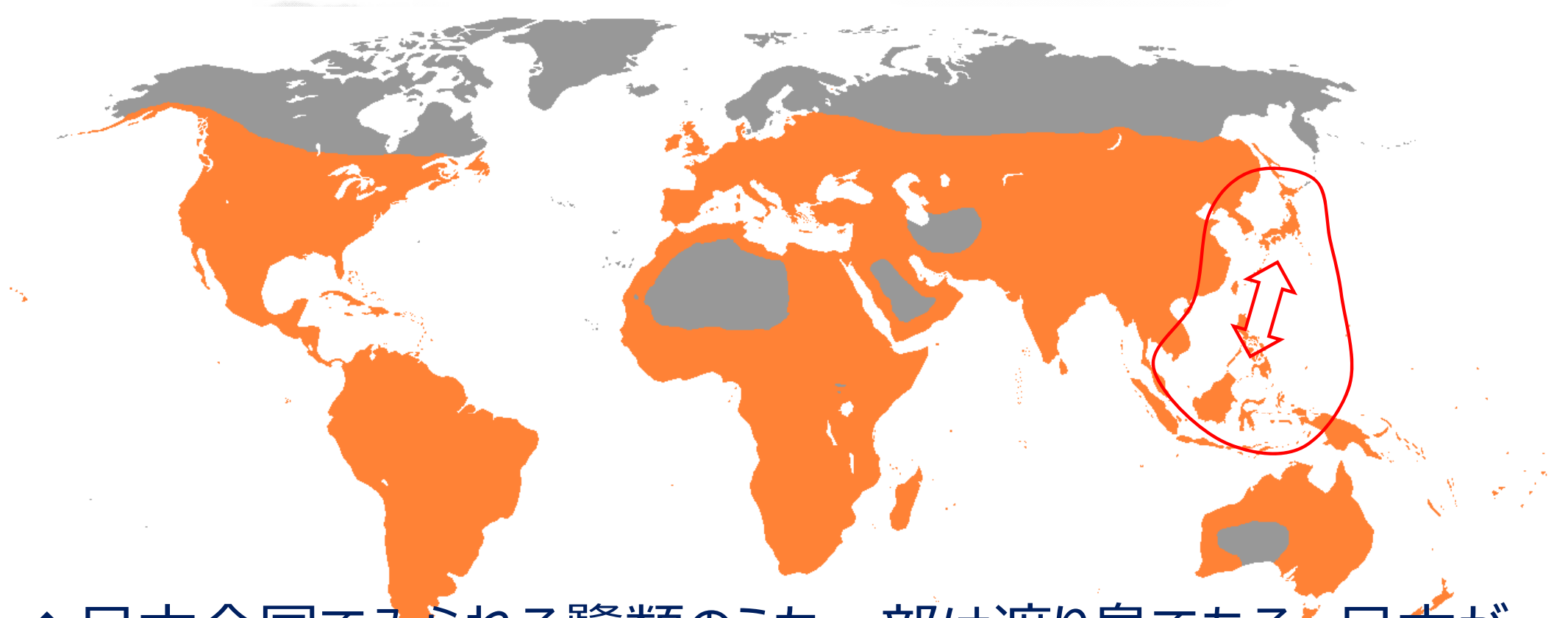
白鷺と呼ばれるもの

ダイサギ

写真は全て事務所
調査で撮影されたもの



◆ 鷺の一部は渡り鳥【チュウサギ・アマサギ】



◆ 日本全国でみられる鷺類のうち一部は渡り鳥である。日本が暖かくなる春から夏にかけて日本に飛来し、営巣・繁殖する。秋から冬になると暖かい東南アジアで過ごす。

全国的に普通に見られる鳥です

営巣地について

- ◆中川には、サギ類集団営巣地がある
 - ・場所は 埼玉県 越谷市 中島地区河川敷
 - ・中川右岸31.5km付近
 - ・中川出張所管内
 - ・通称「サギコロニー」と呼ばれている
 - ・確認できている「サギ」は、白鷺と呼ばれる「ダイサギ」「チュウサギ」「コサギ」を中心に、「ゴイサギ」「アマサギ」「アオサギ」の6種類。
 - ・3月から8月の暖かい時期に繁殖のために飛来する

◆埼玉県内の集団営巣地の現状

埼玉においては鷺がいることが普通の景色、自然である

埼玉県さいたま市浦和区（上野田）にあった『野田の鷺山』は江戸時代から昭和の時代まで存在していた。



絵巻物『鷺山之記并歌（さぎやまのきならびにうた）』
に描かれた有名なサギ山（安政2年1855年藤波重好）

1978年、約260年近く存在していた『野田の鷺山』は 営巣林の喪失
人の生活による鷺の生活圏の攪乱、餌場の水田の減少などにより
ついに消滅。現在はその土地に鷺山は出来ていない。



国による禁猟区指定(M37)

国の特別天然記念物に指定（S27）

鷺山消失（S53）初の指定解除（S59）

さぎ山記念公園設置（S61） が、鷺は戻っていない



◆埼玉県内の集団営巣地の現状 (追加)

江戸時代、『日光御成道』には、鷺山を避けるための迂回路が設けてあったとされ、鷺山の保護が日常から取り組まれていた。日光社参の途中、さぎやま上覧(徳川家慶)が行われていた様である。当時は4つの村にわたり鷺山があったようである。



『徳川家慶鷺山上覧図』
さいたま市立 鷺山記念館

実は「野田の鷺」は世界的に有名

田中徳太郎氏 (1909 – 1989幸手市生)

16年野田の鷺を撮影し続けた。

『鷺』の写真はニューヨーク近代美術館やメトロポリタン美術館、フランス国立古文書館に50点が永久コレクションとして収蔵されている。

残念ながら日本「シラサギ記念自然史博物館」は2007年閉館、写真1000点は学校保存



田中徳太郎氏
写真集「白鷺の詩」

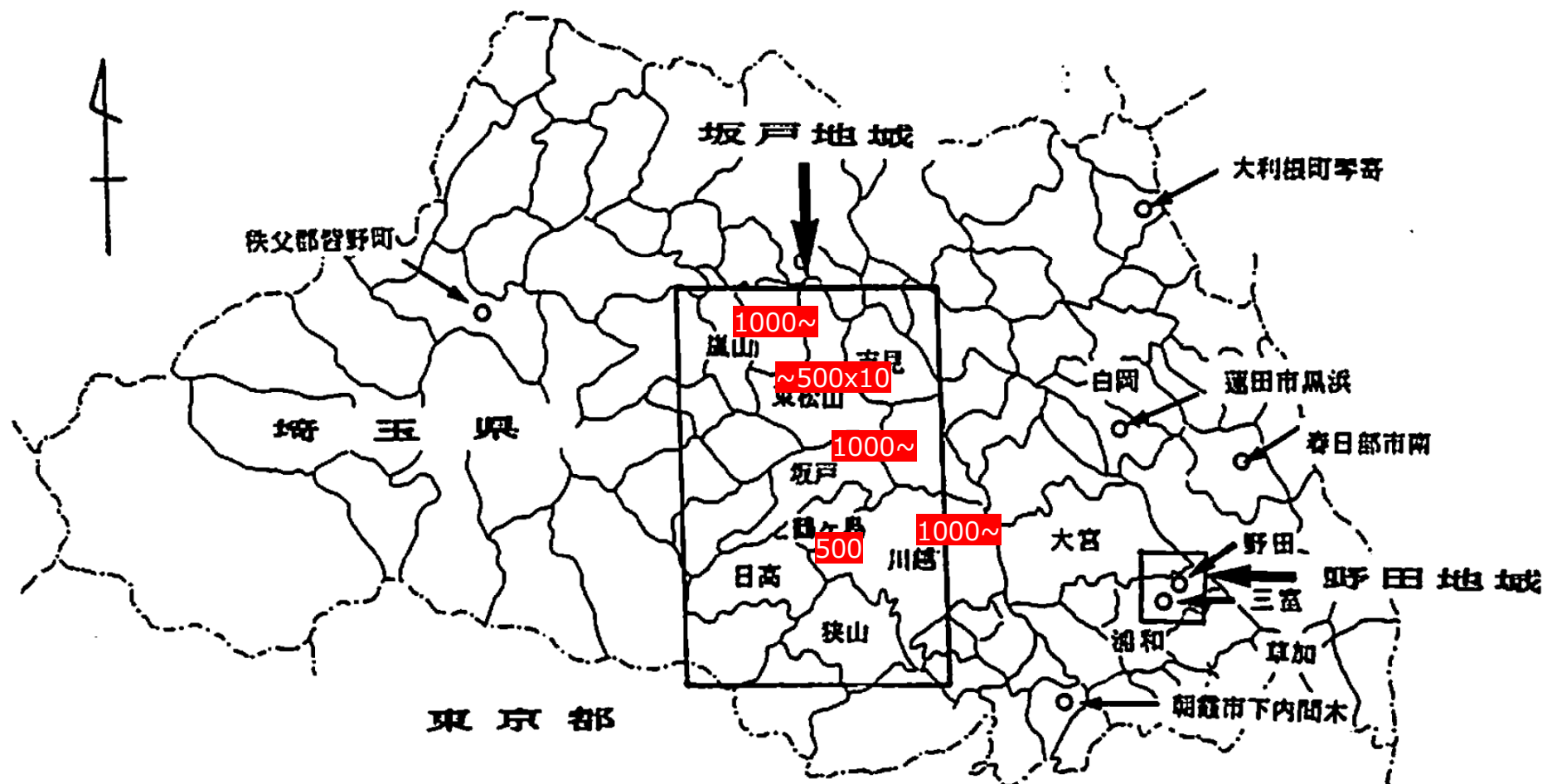


◆埼玉県内の集団営巣地の現状

過去からの情報と現状について（文献） 1940-1992

当時 日本野鳥の会東京支部 成末雅恵さん まとめ

埼玉県の山間部を除いた地域において普通に集団営巣地はあった



埼玉県における鷺類の集団営巣地の変遷より日本野鳥の会研究センター環境解析研究室 資料より

0 10KM

◆埼玉県内の集団営巣地の現状

過去からの情報と現状について

2012年時 4箇所【大規模】

甘棠院と香取公園
久喜市



最近の情報
花園中学校裏



校舎裏雑木林



すべて伐採



鴻巣消防学校裏



中島地区



1

深谷市

県愛鳥モデル指定校 (S61)

旧花園町指定文化財 (H1)

県市住民で取組み 追い出しに成功 (H24)

10 0 10 km

◆埼玉県内の集団営巣地の現状

最新の情報 (2016)

2016年 3箇所？

最新情報

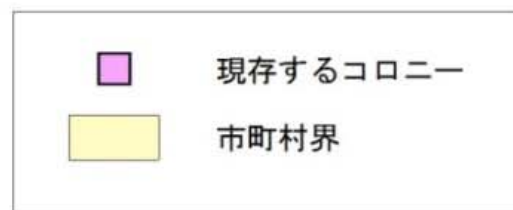
甘棠院と香取公園

久喜市が保全について
前向きな検討を開始した様子
消滅回避

もしかして
最後!?

中島地区

H26年の大雪により
林が倒伏 鷺類は
来なくなった



◆埼玉県内の集団営巣地の現状

バードウォッチャーや写真家の集まる場所として既に有名



鳥写真

撮影した鳥の写真をアップしています。時には一般風景のときもあります。2017.01.21以降の機材は

①主OLYMPUS OM-D E-M1 markII M.ZUIKO DIGITAL ED 300mm F4.0 IS PRO or +

テレコン1.4(2015.4.28)

②散歩用fuji finepix S1 24-1200mm (35mm換算)

f2.8-5.6、

となります。

mail:shuji



©shuji mr <http://mrbirdphoto.tumblr.com/>

↑Webブログ 鳥写真 shujiさん
2017ゴールデンウィーク撮影
家族サービスで来所



↑Webブログ クマゲラの鳥見日記 さん
写真を撮りに来たが、先客がいて帰った
様である。 吉川市側

埼玉県内の集団営巣地の現状

◆埼玉県内の集団営巣地の現状

- ・江戸時代からサギの営巣地としての歴史がある
- ・社会の変化に合わせて一定の対応（追い出し）
- ・追い出した後のケアは基本的に無い
- ・久喜市の『甘棠院』と『香取公園』と『中島地区』が埼玉に残る大規模な営巣地の気配
- ・越谷や吉川などの市議会でも取り上げられるほど認知がある。
- ・既にバードウォッチャーや写真家に有名な場所

◆江戸川河川事務所における取組について

今までの調査結果と今後の方針について

◆なぜ鷺調査を開始したのか

利根川水系中川綾瀬川河川整備計画の策定に向け検討を進めている
10年前より確認されていた『中島地区の集団営巣地』の範囲が
河川改修事業の進展に伴い影響を受けることを踏まえ、
河川改修と生態系保全を両立させた策について検討が必要となった。



◆江戸川河川事務所における取組について

今までの調査結果と今後の方針について

◆現在の状況

平成26年度より、生態学の第一人者である三島次郎氏（桜美林大学名誉教授）を座長とし、鷺の生態に精通した藤岡氏（筑波大教授）、県内の自然環境に精通した埼玉県生態系保護協会 堂本氏らによる有識者会議を設置し対応方針について検討を始めている。

<有識者会議>

座長 三島次郎氏

埼玉大学 浅枝氏

埼玉県 環境整備センター 嶋田氏

埼玉県生態系保護協会 堂本氏

元日本大学 葉山氏

筑波大学 藤岡氏

国土交通省江戸川河川事務所長

◆治水整備を進めていく上で必要な対策等

◆鷺に関するモニタリング調査の区域、内容や手法

◆河川区域外で関係する文献、関連情報の把握

生態学、鷺 専門家、埼玉県環境、河川工学
各分野の専門家より指導、助言をいただいている。

◆江戸川河川事務所における取組について

今までの調査結果と今後の方針について 歴史年表

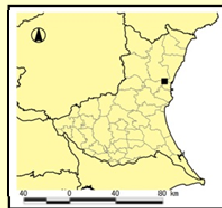
年次		改修計画	環境調査	サギの動向
H10頃	1998			サギ山が確認され始める（ねぐら確認）
H13年頃	2001			中島地区でサギ類コロニーを確認 4月100,9月355羽
H18	2006	整備計画検討		
H19	2007		水辺の国勢調査（鳥類）	5月136,6月636,9月1012羽
H20	2008	築堤の影響把握のため調査実施	水辺の国勢調査（植物）	
H21	2009		水辺の国勢調査（魚類）	
H25	2013	整備計画策定に向け検討開始	水辺の国勢調査 （両生類/爬虫類/哺乳類）	深谷市営巣地伐採
H26	2014		水辺の国勢調査（魚類・利用）	有識者現地見学会 鴻巣営巣地倒伏
H27	2015	整備計画策定にむけ環境影響検討開始	水辺の国勢調査（底生生物）	有識者準備会、有識者会議設置 第一回開催
H28	2016	整備計画（案）の検討 河道形状（案）の検討	水辺の国勢調査（基図） 中島地区環境検討	第二回開催 代替方策（案）の提示 6-8月調査 8月2800羽
H29	2017	整備計画 検討中	水辺の国勢調査（鳥類）	第三回 11月22日開催 第四回 2018年 2月頃

◆江戸川河川事務所における取組について

今までの調査結果

国内外における営巣地対策 事例を収集

久慈川堅磐(かきわ)地区



概要:

関東最大規模のコロニーと治水のための河道掘削を両立させるために、分水路方式で掘削（現在進行中）

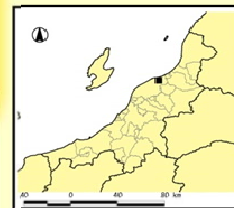
主な対策:

コロニーは中州となるよう分水路で掘削することで流下断面を確保。工期はサギの繁殖時期を避けるようにして施工

現在の状況:

工事はサギ類に大きな影響を与えていない

日本海沿岸東北自動車道



概要:

自動車道計画路線上の阿賀野川の中州に新潟県最大のコロニーがあり、工事による影響への対策が行われた(2002年終了)

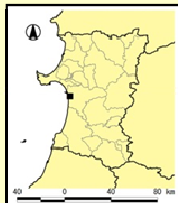
主な対策:

中州の中でも道路から離れた下島へ誘導するためにデコイを設置し、繁殖期を配慮して工事を実施

結果と現在の状況:

デコイは成果があり、下島で繁殖。近年はカワウが飛来。

秋田南バイパス



道路側へ拡大傾向のコロニー

移動防止ネットの設置

概要:

秋田南バイパスルート周辺にサギ類のコロニーがあり、工事による影響を受けないよう対策を行った(2003年供用開始)

主な対策:

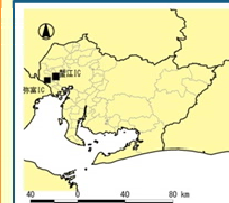
コロニー拡大防止のネットを設置し、サギ類の繁殖時期を配慮して工事を実施

現在の状況:

工事はサギ類に大きな影響を与えていない

低減

東名阪神自動車道 弥富IC・蟹江IC



概要:

既存のICにサギ類が営巣するようになり、高速道路への飛び出し等があったため、「サギによる交通事故の回避」の対策が実施された(現在も継続中)

主な対策:

フェンスの嵩上げやフェンス下のネットの設置などが行われた

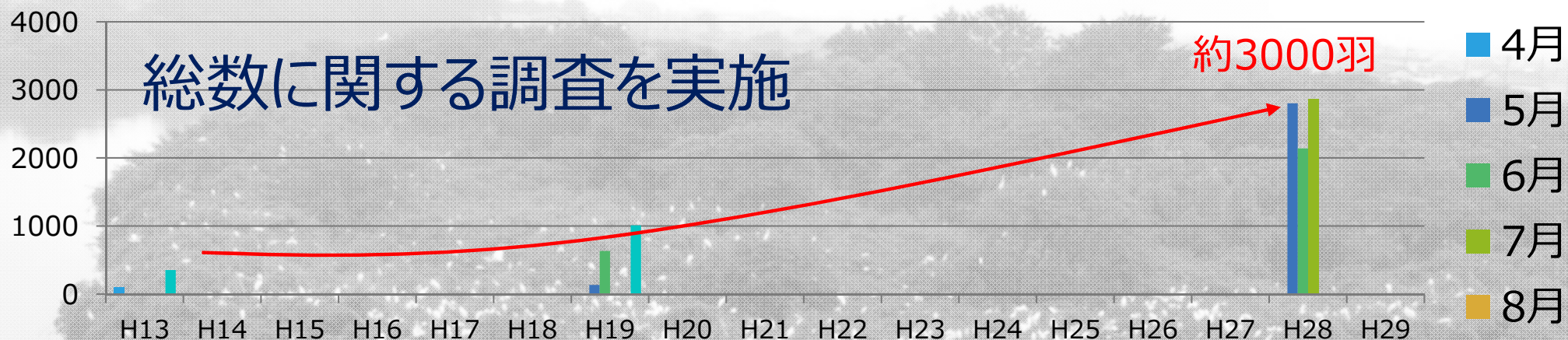
現在の状況:

繁殖は継続され、鳥類の死骸も減少した

保護

◆江戸川河川事務所における取組について

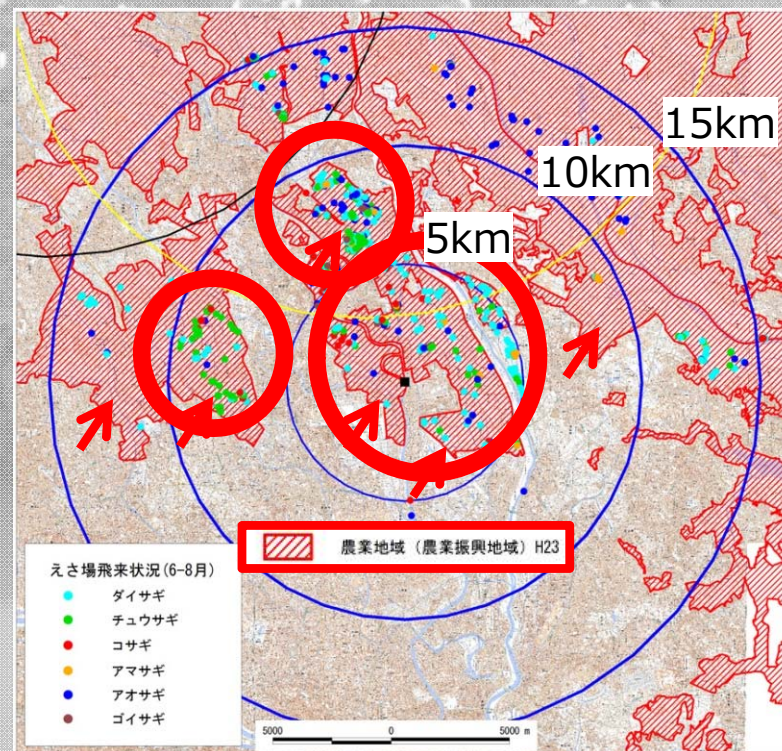
今までの調査結果



行動圏調査を実施 (採餌範囲)

→中島から10km圏で採食
行動圏環境調査を実施
(採餌可能地域)

→やはり水田分布が多い



◆江戸川河川事務所における取組について

今までの調査結果 、 今年度の調査

行動圏にある代償地の候補（逃げ場）調査を実施

→環境にインパクトを与えたとき、10km圏で回避を想定

越谷市

①越谷レイクタウン大相模調節池

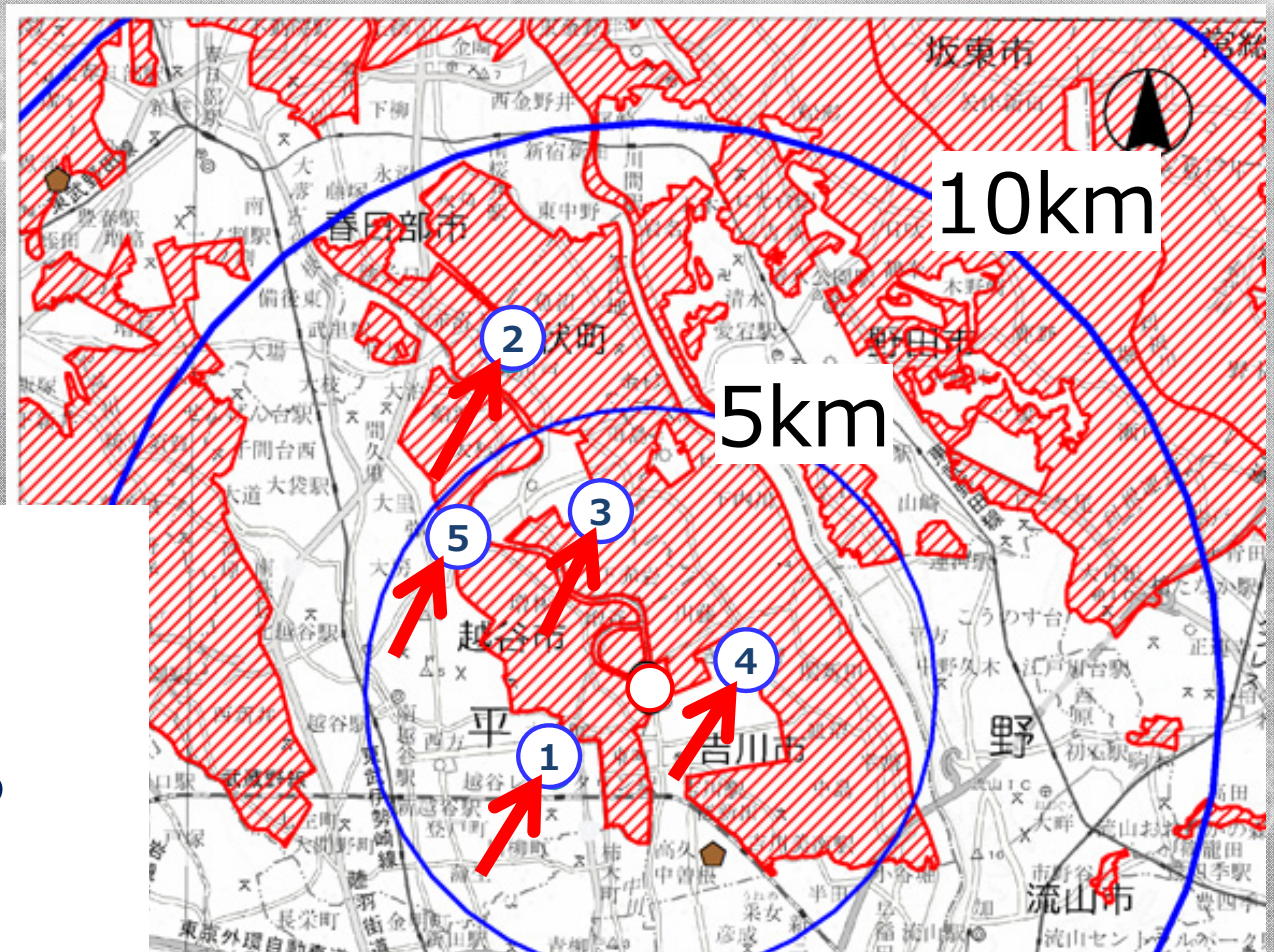
松伏町

②まつぶし緑の丘公園

③松伏総合公園・外前野調節池

埼玉県総合治水事務所

④吉川調節池 ⑤大吉調節池



候補地確認調査

→想定した場所は

鷺に選ばれるのか！？

→H29は塹を調査！

◆江戸川河川事務所における取組について

有識者会議

平成27 準備会

- ・繁殖期における中島地区のサギ類コロニーの現地確認
- ・有識者会議の発足について
- ・繁殖期におけるコロニーの現地確認を踏まえた意見交換

有識者の確保と会議設置の合意

保全の必要性確認
今後の検討に向けた懸案事項の確認

平成27年度 第1回 有識者会議

- ・有識者会議設立の趣旨と規約の確認
- ・座長の選出
- ・事例調査等の報告
- ・鷺類コロニー保全の考え方について

有識者会議の設置

有識者会議の確立
保全方針の整理、事例調査、次年度調査に向けた確認

平成28年度 第2回 有識者会議

- ・H28調査結果の報告
- ・回避低減代替（案）の提示
- ・対策の考え方（原案）について
- ・対策（案）と事業との考え方について
- ・今後の調整について

対策（案）の提案と保全策（案）の検討

環境に与える影響、回避低減代替（案）の確認
対策（原案）の提案、代替策（案）等の検討
調査検討内容の確認、次年度以降の方向性確認

平成29年度 第3回 有識者会議

- ・H29調査等の報告・調査計画について
- ・対策方針（案）について
- ・保全方針（案）について
- ・今後の進め方について

調査結果と対策（案）についての検討

今後の有識者会議の方向性の検討

調査方法に関する助言、結果に関する評価
保全方針（案）についての確認・助言
今後の取り組み方針の提案

平成29年度 第4回 有識者会議（案）

- ・保全方針（案）について
- ・今後の進め方について

保全方針（案）、取組方針（案）の検討

保全方針（案）に関する指導・助言
今後の取り組み方針の提案

◆江戸川河川事務所における取組について

有識者会議での意見や提案



＜鷺類コロニーの保全対策の考え方について＞

- ・可能な限り現在の河川敷に残すことが望ましい。
- ・「営巣林を全く残せる、部分的に残せる、全く残せない」の段階があり、部分的に残せる場合は、代替措置として複数の営巣可能場所を確保するという考え方で進めること。
- ・同時並行的に、県や市を巻き込み、調節池や公園などでの受け入れを検討をすすめる方が良い。

＜移設について＞

- ・移設の事例はあるが、失敗も多く、簡単ではない。残す方が容易である。
- ・複数箇所の代替地を設置し、代替地での営巣が安定してからの改修（掘削）という手法。

＜環境学習の必要性について＞

- ・中川のコロニーや、掘削事業との折り合いを付けた事例は、自然学習、自然観察会の材料となる素材である、注目度も高いため、むしろ早い段階からアピールした方がよい。

＜調査項目について＞

- ・平成29年度時点の方針では営巣地のある河岸を掘削する方針。改修の実施時期は未定。着手までにまだ期間があるが、対策（案）として「回避・縮小（案）」を提示している。
- ・鷺への影響が無いのであれば、対策（案）は実施しないで通常の掘削（案）もありえる。

＜今後の方針＞

- ・かなりの長期間先を見据えた検討となる。河川事務所で取り組める事を進めるべき。自治体の対応を待つのではなく、自治体が主体的に活動できるよう国からの呼びかけを願う。

河川事務所の取組結果 まとめ

- ◆江戸川河川事務所として現状把握・検討を継続して実施してきた。
 - 鷺は確実に増えてきている。
 - 河道内に保護のための直接的整備や対策は行えない。
 - 河川区域外も視野に入れた対応方針としなければならない。
 - エコロジカルネットワークを意識しなければ解決が困難
- ◆現在の営巣地の状況では河道改修による影響は避けられない為、回避、影響低減策を必要に応じて実施する方針を決定。
- ◆回避低減だけでなく代替地に関する可能性・方向性をまとめる。
- ◆国、県、市、環境団体など関係者で情報を共有を急ぎ、目指すべきビジョン、役割について調整を始める時期。
- ◆河道改修の進捗にあわせた情報の共有方法、経過観察の実施方法、対策の着手時期を見据えた準備を整えていく方針。
- ★鷺だけを特別扱いするのではなく、河川環境の一部として最低限の配慮をすべく、今後の鷺の動向を注視していく。

まとめ

- ◆埼玉県における鷺の居場所は確実に減少。
- ◆中川中島地区は「中川」としてではなく「埼玉」としても重要。
- ◆河道の改修の影響は必ずある。管理者の対応は必須。
- ◆鳥としての鷺は、「中川多自然川づくり」では対応が困難。
- ◆河川管理者として出来る取り組みは進めつつ、県、市など自治体が主体的に活動できる枠組を早々に検討し、実行していくことが重要
- ◆サギが普通にいる状態のうちに生態系としての保護を目指す
- ◆トキやコウノトリのように、いなくなってからの対応では遅い
- ◆今後は関東エコロジカルネットワークとして、水系間での保全を視野に入れた検討が望まれるのではないかな。